

保護者の皆様

令和5年11月20日  
(2023年)  
吹田市立千里第二小学校  
校長 佐野 賢治

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1. 教科に関する調査結果と分析

#### 国語



#### 《概要》

- ・正答率は全国値を上回っている。
- ・正答数分布は、11問正解者（14問中）を頂点として、9問以上の正解者数が全体の80%になっており、全国値と比べて高位層が多く低位層が少ない。

#### <話すこと・聞くこと>

- ・全国値を大きく上回っているが、「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題では、無回答率が高い。他者の意見を自分の考えに生かして考えをまとめる機会を増やす。

#### <書くこと>

- ・一問一答のような問題は比較的できるが、文章を読み、複数の資料の内容をふまえ、自分の考えを持ち、その考えをまとめて書く記述式の問題では正答率が低く、無解答も多くなる。書くことを苦手と感じている児童にも、簡単に短い文章を書く練習を繰り返したり、書く型を示したりするなど指導を工夫する。

#### <読むこと>

- ・読み取った内容を選択式で答える問題は比較的できるが、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる記述式の問題では正答率が低く、無回答も多くなる。

自由に自分の考えを書くだけでなく、「文章から得られたことに基づいて」自分の考えを書く機会をつくるようにする。

#### <言葉の特徴や使い方に関する事項>

- ・漢字はよくできているが、「意外」と「以外」などの同音異義語の間違いが見られたので、個々の漢字の意味を意識づけられるように指導していく。

#### <質問項目から>

- ・「国語の勉強が好きですか」という質問に対して、「当てはまる」と肯定的に答えた児童の割合が全国値とほぼ同じである一方で、「当てはまらない」と答えた児童の割合は全国値を上回っている。読書に対する関心は高いのだが、国語全般に対する関心、意欲は高いとはいえない。授業で関心、意欲を高める工夫を取り入れていく。

## 算 数



### 《概要》

- ・正答率は全国値を上回っている。
- ・正答数分布は、およそ13問(16問中)を頂点とする得点の高い右よりの山形を描き、10問以上の正解者が75%以上おり、全国値と比べて高位層が多く低位層が少ない。

### <数と計算>

- ・全般的に、正答率が全国値より上回っているが、割り算の筆算の原理の理解が十分でない。単に計算の仕方を覚えるだけでなく、論理的に説明する機会を増やす。
- ・他人の解法の理解(自分はそういう解き方はしないけれど、この人はこういう論理で考えているのだろうと推察する力)に課題があり、他人の解法を説明させるなどの機会を増やす。

### <図形>

- ・全般的に、正答率が全国値より上回っているが、面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述式で答える問題では正答率が低い。この問題の場合、大小の判断は合っている児童が多い。記述のところで、面積を決定づける「底辺」と「高さ」の両方について言及しなくてはいけないのに、片方のことだけを書いて不正解となった児童が多い。算数用語を使って、きちんと抜け漏れなく説明する機会を増やす。
- ・問題を解決するために必要な情報を見抜く力が求められている。情報過多(必要ない数値もあえて入っている)の問題が苦手であり、必要な情報だけを取り出せれば実は簡単な問題なのだが、複雑に考えてしまう児童がいた。また、問題文の一部だけを読み、安易に考えて誤答となった児童も多かった。

### <変化と関係>

- ・全般的に、正答率が全国値より上回っているが、比例を使って知りたい数量を求める方法を式や言葉を用いて記述式で答える問題では正答率が低い。

## <データの活用>

- ・一般的に、正答率が全国値より上回っているが、複数のグラフを読み、見いだしたことを言葉と数を用いて記述式で答える問題では、無解答が多くなる。
- ・問題文の中に、実は出題者が模範となる記述例を示してくれている（これをヒントにして真似て書いたら正解になります、とは書いていないが）のだが、それを活かしていない児童が多い。このような型を示し、それになぞって書いてみるという機会を持つようにする。

## <質問項目から>

- ・「算数の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対して肯定的に答えた児童の割合が全国値を上回っている。
- ・算数の授業で学習したことは将来役に立つと思っており、算数の勉強の大切さも理解している。



## 2. 生活習慣や学習環境等に関する調査結果と分析

- 朝食を毎日食べている児童が多く、また毎日同じくらいの時刻に寝ている児童も多い。この結果から、全国と比較して規則正しい生活を送っている児童が多く、子どもの生活に対する家庭の意識の高さが伺える。



- 「自分にはよいところがあると思いますか。」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の質問では、肯定的な回答がかなり高く、自己肯定感が高いうえに、先生に認められることでそれが強化されていることが伺える。
- しかし、「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについてわかるまで教えてくれていると思いますか。」の質問では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせると90%以上なのだが、「当てはまる」に限定すると全国値を下回る。また、「困りごとや不安があるとき、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」の質問では、全国値より高いものの、他の質問項目の回答状況と比べると肯定的な回答が少ない。児童が、わからないことがあったり困ったりしたときに話のしやすい学校になるよう努めていく。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問では、肯定的な回答が90%を超えている。本来であれば、いじめはどんな理由があってもやってはいけないことであると100%の児童に思っていてほしいし、いじめ予防授業でも指導をしているところだが、現状としてそうは思っていない児童もいる結果になった。理由があれば、いじめをしてもいいわけではないことを、今後も粘り強く指導していく。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問では、肯定的な回答が90%近くあった。その一方で、そうは思っていない児童も10%ほどいることから、今後も児童が安心して楽しく学校生活を送れるように、見守っていく。

- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問では、肯定的な回答が全国値を上回っている。平日、土日とも長い時間学習をしている割合が高い。
- 学校の授業以外に読書をしている児童は、1時間以上が30%近くおり、全国値を上回っている。学校図書館や地域の図書館の利用も多く、また、家に100冊以上本がある児童が半数以上いる。新聞をほぼ毎日読んでいる児童は約10%で、全国値よりかなり高い。読書が好きと答えた児童も80%近くおり、活字文化に親しんでいる様子が伺える。
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問では、肯定的な回答が全国値を下回る。千二小校区は地域の方が、学校の運動場などを使ってさまざまな行事を企画、実行してくださっていて、毎回それを楽しみにしている児童もたくさんいるのだが、なかなか参加できない児童も一定数いることがわかる。
- 外国のことを知ったり、逆に日本や今住んでいる地域のことを外国の人に知ってもらったりしたいと思っている児童が多い。
- ICT機器を週1回以上利用したと実感している児童は90%程度おり、全国値とほぼ同じである。タブレット端末は毎日の授業の中で使っていく場面を増やしていく。また、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問では、肯定的な回答が90%を超え、「役に立たない」と思っている児童が0%だった。多くの児童が日々使うことによって、役に立つと実感していることがわかる。
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の質問では、肯定的な回答が75%近くあった。「自分で課題を立てて」の部分が当てはまらないと判断している児童がいることが伺え、今後児童自身で課題を立てて取り組む活動をしていく。
- 学級での話し合いについては肯定的な回答が多く、今後も引き続き話し合いの時間を大切にしていきたい。



### 3. 今後の学力向上の取り組み

教科に関する調査では、「記述力」が課題であることがあらためて浮き彫りになりました。国語を中心に授業の中で、書く活動を大切にしていきます。

自由に感想を書くことはしっかり書ける児童が多いです。しかし、一定の分量で、何かを引用して書いたり、他者の考えに基づいて自分の意見をまとめたりといった条件付きの文章を書くことが課題であることがわかりました。今後に生かしていきます。

また、生活環境や学習習慣等の調査からは、何事にも真面目に取り組む児童の姿勢と家庭のサポートが伺えました。自分を肯定的に捉えている児童が多いことは嬉しいことでした。その思いを大切に育んでいきたいと思えます。

本調査から見えてきたさまざまな課題解決に向けては、ご家庭と学校との連携が大切です。今後とも保護者の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。